

劇、行列等の催しあり、其番組の數二十六七の多きに達し、各自非常の意氣込にて準備をなすゝあるを以て、當日の盛況今より想像するに餘りあり、其詳細は次號の誌上に報道すべし。

## 関連事項

### ① 桜岡三四郎の留学

桜岡三四郎は、明治三十年一月二十三日付で本校助教教授となるが、翌三十一年岡倉校長退陣に殉じて懲戒免官となる。『鑄金近代史稿』（昭和三十一年四月。鑄金家協会）には、「明治三十一年、美術騒動によって退陣した岡倉一派が日本美術院創立の企画を発表、鑄金家としては、岡崎雪声・桜岡散城（三四郎）・山本若次郎等が参加した。日本美術院には鑄金部が設置され、新人の養成にも当たった。ところが、鑄金部では和洋両系統に分れ、衝突したため工場を分ける等して調整したが、石川浩洋〔鑄金科 美校第一回卒〕を中心とする洋風鑄造が盛況を極め一時盛んになった。しかし、洋風は数年経ずして失敗、浩洋は仏印に渡ったので、その後は和風の独壇場ともなった。ところが和風鑄造も三十六年頃にはつぶれてしまった」とある。美術院鑄金部の創設が思うように進まなかったため明治三十二年後半の桜岡は、軍人としての生活に専念し、美術に復帰するのは、十一月二十二日に除隊して、十二月一日、谷中に鑄造研究所を開設してからである。明治三十三年五月十二日付で本校助教教授に復職、専ら依頼製作に従事する。鑄金科主任となった三十五年「鑄金術研究ノ為滿三ヶ年間佛國米國へ留学ヲ命ス 明治三十六年中本邦ヲ出發ス可シ」との通知を八月一月付で文部省から受ける。工芸

関係者としては初めての国費留学生である。留学中の消息については、『東京美術学校校友会月報』の通信欄に寄せた手紙などで知られるのみである。自由の女神像、ニューヘヴン記念標、シャーマン將軍像などの大型金属像の構造や設置状況などを紹介している。また鑄造工場を意欲的に見学、各種製造機械類のカタログ収集にも努めた。三十八年の春には、アラバマ州バーミングハムにて、当州よりセントルイス博へ出品された大像の鑄造にも関係した。三十八年秋にはニューヨークを離れ渡欧、それ以後帰国までの行動はほとんど不明である。以下三十六年以降の履歴を「東京美術学校旧職員履歴書」より転載する。

〔明治三十六年〕二月廿四日 東京新橋驛ヲ発シ横濱ヨリ汽船旅順丸ニ搭

シ米國留學ノ途ニ就ク

三月十四日 北米合衆國シヤトル港ニ上陸 廿四日紐育

府ニ入ル

〔同三十八年〕八月廿五日 明治三十九年四月廿日迄留學延期ヲ命ス

十月 七日 米國紐育港出發白耳義ヲ經テ佛國巴里ニ轉

學ス

〔同三十九年〕四月 日 留學満期ニ付佛國巴里ヲ出發シ古美術研究

ノ爲伊太利國ヲ巡歴シ更ニ轉シテ英國倫敦ニ入ル

六月 六日 回航ノ軍艦鹿島ニ便乗ヲ許可セラレ同國ボ

ーツマウス軍港ヲ拔錨シスキス運河ヲ經テ八月四日本邦横須賀軍港ニ上陸 即日東京

帰国年の明治三十九年十二月二十六日付で本校教授となった。

## ② 専門学校令発布

本年三月二十七日、勅令第六十一号により専門学校令が発布され、高等の学術、技芸を教授する学校は専門学校とされた。これには官立学校と文部大臣の認可を受けた公、私立学校が含まれ、いずれも修業年限は三年以上と定められた。この法令により、千葉・仙台・岡山・金沢・長崎の各医学校、東京外国語学校、東京音楽学校および本校は官立専門学校となった。なお、この法令は昭和二十二年学校教育法の公布によって廃止される。

## ③ 沼田一雅と陶像研究

沼田一雅は「東京美術学校旧職員履歴書」によると明治六年福井に生まれ、満六歳のときから父に彫刻を習い、明治十九年に兵庫県品評会へ写生像置物を出品して銅賞を受賞。翌二十年奈良へ遊学し、東大寺法華堂不動尊を模造。同二十四年一月修業のため上京し、同年二月以降六ヶ月間、竹内久一の奈良古美術模刻に従い、同年十月から一年間、岡崎雪声に蠟型を学び、翌二十五年十一月から二年間、竹内久一に彫刻を学んだ。彫刻競技会や日本美術協会に出品して受賞を続け、二十七年九月に本校鑄金科蠟型教場助手となり、二十九年四月に助教教授に昇格。三十三年パリ万国博で金牌を受け、一躍名を馳せた。

一雅はもと大阪天王寺畔の焼物屋の息子で、道端で土いじりをし

ているのを通りかかった竹内が見つけ、才能を見込んで東京へ伴れてきて修業させたという。この話は正木直彦著『回顧七十年』所収「沼田一雅と陶像とメダル」の冒頭に記されており、今日これが定説となっている。しかし、一雅を発見したのは海野美盛だという説もある。こちらは一雅がパリ万国博で金牌を受賞した際、『中央新聞』（明治三十三年十月八日）に掲げられた「金鐘青年彫刻家（二）沼田一雅」と題する記事で、これによると、一雅の父一珍は福井藩士であったが、維新後大阪に移って商業を試みて失敗し、京都に移り、池田清助に陶土を分けて貰って拵りものを作って生計をたてた。一雅は父の手伝いをしてるうちに才能を発揮し始め、十五歳のとき父と大阪に遊び、千日前で象を見、これを作ったところ、よく出来て大阪博物館に陳列され、大賀可楽に激賞された。そして、

「其の翌年また奈良に遊び三月堂の不動を模造せり 時に海野美盛たま〜京都に遊び一雅の伎倆凡ならざるを知り共に上京せむことを勧めしかとこの時は一雅すでに一家の生計を助けつゝありしかばその事果さず その翌十七歳に至りて初めて志を決して京都を辭し東京に來りて美盛に依り幾ばくもなく竹内久一に就きて學びまた之に従ふて奈良に行き居ること一年ばかり大に奈良朝の彫刻を研究するを得たり」

という。海野美盛は明治二十二年前後四年間、「山城大和紀伊ヲ歴遊シ古社寺之国宝及正倉院御物之拝觀ヲ許可セラレ研究」し、その間京都で一年余り小倉惣次郎に洋式油土彫刻を、今尾景年に四條派